

## 施策分類 1

### 住みたい・住み続けたいまちになるための施策

#### a 人を増やす

- a-1 安心して子どもを産み、育てられる環境づくりの推進
- a-2 未来を創り、未来を担う子どもたちを育成する学びの推進
- a-3 地域を豊かにするための企業誘致と産業振興の推進
- a-4 移住・定住の促進と良好な住環境づくり

#### b 人を誘導する

- b-1 町内外への豊かで魅力のある情報発信の推進

#### c 人を惹きつける

- c-1 緑豊かな自然を守り、育て、繋ぐ取組の推進
- c-2 持続的で安定した農業経営に向けた取組の推進
- c-3 豊かな歴史資源や特産品を活かした観光振興の推進

第6次総合計画 の位置づけ	施策分類		施策名	
	1	住みたい・住み続けたいまちになるための施策	a-1	安心して子どもを産み、育てられる環境づくりの推進
施策の展開方向	①時代のニーズに合わせた子育て支援			
想定される取組 その他の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆子どもに係る福祉医療の充実</li> <li>◆オンラインによる母子健康相談の検討</li> <li>◆デジタル母子手帳の導入に向けた検討</li> </ul>			担当課名 健康保険課
取組状況	<p>子ども（0歳から高校生世代まで）の保険適用医療費に係る自己負担額の無償化により、子育て世代に経済的支援を行っている。</p> <p>乳幼児の健全な成長発達を促すため、対面方式の母子健康相談を継続している。</p> <p>伴走型相談支援と出産子育て応援交付金の一体的な実施により妊娠、出産に伴い各50,000円の給付や産婦健康診査、新生児聴覚検査の一部助成を継続して実施し、出産、子育て期の経済的支援を行った。</p> <p>不妊治療については保険適用となったが、一般不妊、不育の治療費助成を継続して実施した。</p> <p>県による電子母子手帳の共同化の検討が開始され、デジタル母子手帳の導入に向けた検討、情報収集をすすめた。</p>			
課題（問題点）	子育て支援や経済的支援は順調に進んでいるが、国の動向を注視して母子保健DX化を推進する必要がある。			
施策の評価	概ね順調	<p>(左記評価の理由)</p> <p>県による電子母子手帳の共同化に参加の方向で検討を進めており、出産、子育て期の経済的支援も継続している。</p>		
今後の方向性	拡充	<p>(具体的な内容)</p> <p>子育て支援の充実化を目指し、子ども医療費助成等の福祉医療費助成では、マイナンバーカードを受給資格証として利用し医療機関等の受診を可能とするオンライン資格確認の導入に向けて、また、母子保健DXでは母子手帳の電子化等デジタル化の導入に向けて、国の動向を注視しながら取り組んでいく。</p>		
想定される取組 その他の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆子ども・子育て支援事業の充実 ◆保育事業の拡充</li> <li>◇子育て支援情報の発信強化 ◆多子世帯保育料の軽減</li> <li>◇学童保育の質の向上と安全安心な保育の実施</li> </ul>			担当課名 こども支援課
取組状況	<p>子ども・子育て支援事業計画に基づき、認定こども園における一時預かり事業や延長保育等の保育サービスを提供している。「子ども・子育て支援事業計画」「子どもの未来応援計画」を内包した「こども計画」を策定した。また、待機児童対策として、新設幼保連携型認定こども園の開設を進めた。また、令和8年度開園を目指し、平群北幼稚園のこども園化に向け建設時の補助や開園時に円滑な園運営を行うことができるよう技術的な支援を行った。（令和6年4月 レイモンドこども園が開園）</p> <p>多子世帯の保育料の国の基準を拡充した軽減措置を継続している。</p> <p>病児保育事業の周知を重ね重ね実施した結果、登録者数は増加している。</p> <p>学童保育については、全学年を対象とした19時30分までの保育時間や多子減免もある安価な保育料等、近隣市町と比較しても高いサービス水準で運営を行っている。また、増加する入所児童に対応した指導員の安定的な確保及び更なる質の向上等、アウトソーシングを含めた安定した学童保育の運営について検討を行った結果、令和7年度から学童保育所運営業務の民間委託が、スムーズに移行できるよう努めた。</p>			
課題（問題点）	国の子育て支援策の充実による新規事業の実施検討及び住民ニーズの多様化による事業の検討を行う必要がある。			
施策の評価	概ね順調	<p>(左記評価の理由)</p> <p>子ども・子育て支援事業については、地域の実情に応じ実施している。待機児童については年度当初は0人であったものの年度途中の転入等により年度末で16人待機児童が出ているが、民間の幼保連携型認定こども園開設準備にも取り組むことで、待機児童も解消する見込みである。学童保育については、入所希望者を受入れしており、保育ニーズに対応している。</p>		
今後の方向性	拡充	<p>(具体的な内容)</p> <p>「こども計画」に基づく「こどもまんなか社会」を実現するために現状のサービスを継続するとともに、住民ニーズを把握し育児支援につなげる。学童保育においても、安定した学童保育の運営を目指す。</p>		

施策の展開方向 ②地域が支える安心の子育て環境づくり		
想定される取組 その他の取組	◇ファミリークラスの開催 ◇乳幼児相談の実施 ◇子育てサークルの運営支援 ◇子育て世代包括支援センターの体制強化・機能充実	担当課名 健康保険課
取組状況	<p>ファミリークラスについては、妊娠中の生活等の不安を軽減することや仲間づくりを目的にファミリークラスを開催し、沐浴や食事指導を行った。</p> <p>子育てサークルのハムスターズファミリーについては、参加者とともに家庭センターの協同で開催し、多くの親子が参加した。また、ばぶばぶ子育てサークル（1歳未満）では、保健師、助産師、管理栄養士、保育士等専門職が個々の不安や相談に携わった。</p> <p>令和6年4月より「子ども家庭総合支援拠点」と「子育て世代包括支援センター」を統合した「子ども家庭センター」を開設し、妊婦、子育て世代、子どもに対して効果的で切れ目のない支援を行った。</p>	
課題（問題点）	サークル等に参加しにくい家庭等、つながりの希薄な家庭へは、個別対応で発達のフォローアップや親への支援を行っているが、サポート不足や精神的な不調など複合的な課題を抱える家庭へはよりきめ細やかで重層的な支援が必要である。	
施策の評価	概ね順調	（左記評価の理由） こども家庭センターの開設に伴い、合同ケース会議や親の会等を開始し、町の相談支援体制の強化を図った。 サークルについては継続的な参加があり、満足度も高いと思われ、こどもの発達支援や親同士の交流の場として提供できているため。
今後の方向性	継続	（具体的な内容） 全ての妊娠婦、乳幼児を対象とするポピュレーションアプローチ（集団に対して健康増進や疾病予防に取り組む方法）と、専門的支援を要する家庭の対応等一体的支援に取り組む。
想定される取組 その他の取組	◇子育てサークルの運営支援 ◇地域子育てネットワーク等有償託児の実施 ◇子ども食堂等の居場所づくり	担当課名 こども支援課
取組状況	<p>同年齢や課題別で組織した子育て支援センターが実施するサークル活動を支援して親の自主的活動を促している。</p> <p>地域で支えるサポートとして、未就園児有償託児を子育て支援センターで実施している。</p> <p>子ども食堂の開設について社会福祉協議会と連携し、準備支援に努めている。</p>	
課題（問題点）	良好な子育て環境をつくるため、ファミリーサポートセンター設置において相互援助の核となる組織づくりや体制整備に要する人材と財源の確保に課題があり、様々な住民ニーズへの対応、地域コミュニティの活性化等の課題への対応についても検討する必要がある。	
施策の評価	概ね順調	（左記評価の理由） 保護者の安心や寛ぎのための未就園児有償託児や年齢別講座、子育てへの父親参加を促すパパ講座、各種行事・イベント等の企画実施に努めた。
今後の方向性	継続	（具体的な内容） 事業を継続する中で、ファミリーサポートセンター設置等について、近隣自治体の調査を行うなど、様々な住民ニーズに対応する方策（ベビーシッター利用支援事業等）について検討する。

想定される取組 その他の取組	◇通学路の安全確保	担当課 教育委員会
取組状況	通学路安全確保を目的とした会議を年1回開催し、危険個所を町ホームページに公開する等の取組みを行っている。	
課題（問題点）	看板の設置等で安全確保に努めているが、課題解決には至っていないケースがある。	
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 問題が発覚した箇所については基本的に対応できており、通学路の危険個所は減ってきているため。
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 通学路の安全確保に向け、ハード・ソフトの両面から対策を講じていく。

施策の展開方向			③子どもと親の健全な環境を守る取組の強化
想定される取組 その他の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇要保護児童対策地域協議会の強化</li> <li>◇平群町社会福祉協議会との連携強化</li> <li>◇子ども家庭総合支援拠点の機能充実</li> </ul>		<p style="text-align: center;">担当課名</p> <p style="text-align: center;">健康保険課</p>
取組状況	<p>児童虐待対策については、要保護児童対策地域協議会の進行管理会議を年 6 回開催し、情報共有・支援方針を協議しており、支援が必要な家庭については社会福祉協議会と情報を共有し、支援対象児童等見守り強化事業等の必要なサービスの提供を行っている。</p> <p>また、ヤングケアラーについては、相談窓口を設置し、啓発活動を行っている。</p> <p>令和 6 年 4 月より「子ども家庭総合支援拠点」と「子育て世代包括支援センター」を統合した「子ども家庭センター」を開設し、妊婦、子育て世代、子どもに対して効果的で切れ目のない支援を行った。令和 6 年 8 月には母子保健と児童福祉の両機能のマネジメントを行う統括支援員を 1 名配置した。</p>		
課題（問題点）	<p>年々困難ケースや通告が増加しており、緊急対応も増えている。県中央こども家庭相談センターとも情報共有して支援しているが、保護者への連絡が取りづらいケースも発生している。</p>		
施策の評価	概ね順調	<p style="text-align: center;">(左記評価の理由)</p> <p>対応ケースは増加しているが、県中央こども家庭相談センター、中和福祉事務所等の関係機関と連携をとて対応しているため。</p>	
今後の方向性	継続	<p style="text-align: center;">(具体的な内容)</p> <p>県中央こども家庭相談センターとより密に連携し、こども園や小・中学校等関係機関とも密に連絡を取ることで、児童の見守りや家庭支援の強化に努める。</p>	
想定される取組 その他の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇支援対象見守り強化事業</li> <li>◇ひとり親家庭に対する支援</li> </ul>		<p style="text-align: center;">担当課</p> <p style="text-align: center;">こども支援課</p>
取組状況	<p>社会福祉協議会の社会福祉士等が家庭を訪問し、困難を抱える児童・保護者等の見守り及び食料支援（COCORO 便）や相談支援を実施している。</p> <p>令和 6 年度から、社会福祉協議会の訪問支援員が、家事・育児等に対して不安や負担を抱える子育て世帯等に対し、家庭の抱える不安や悩みを傾聴するとともに、家事・育児等の支援を実施している。</p> <p>ひとり親家庭に対する支援については、奈良県と連携して生活支援等の相談及び制度周知を実施している。</p>		
課題（問題点）	<p>問題の多様化により、ケース対応にかなりの時間を要する。</p>		
施策の評価	概ね順調	<p style="text-align: center;">(左記評価の理由)</p> <p>支援対象見守り強化事業を開始して 4 年目となり、関係機関との連携強化により様々なケース対応を行っている。また、孤立化する世帯へのアプローチの手段として有効であるアウトリーチ型支援にも取り組んでいる。</p> <p>子育て世帯訪問支援事業を令和 6 年度から開始し、こども家庭センター等の関係機関と連携してケース対応を行っている。</p>	
今後の方向性	継続	<p style="text-align: center;">(具体的な内容)</p> <p>こども家庭センター等の関係機関との連携強化により、ケースワークを継続する。</p>	

想定される取組 その他の取組	◇児童虐待やヤングケアラー等、子どもを取りまく環境問題についての早期発見・早期対応	担当課
		教育委員会
取組状況		県配置のスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、要保護児童対策地域協議会と連携して、子どもが抱える問題のケアに取り組んでいる。
課題（問題点）		児童の置かれた環境の違い等、様々な個別の課題についての実態把握が難しい。 見えにくい実態に対する効果的な解決策や援助方法を検討する必要がある。
施策の評価	概ね順調	（左記評価の理由） 課題に対して、学校からのアプローチを含め、実態に応じた対応を進めている。
今後の方向性	継続	（具体的な内容） 今後もひとつひとつの事象に丁寧に向き合い、要保護児童対策地域協議会等と連携し対応策を検討する。

第6次総合計画の位置づけ	施策分類		施策名			
	1	住みたい・住み続けたいまちなみになるための施策	a-2	未来を創り、未来を担う子どもたちを育成する学びの推進		
施策の展開方向	①「笑顔で子育て、笑顔でつながる」環境づくりの推進（就学前教育・保育）					
想定される取組 その他の取組	◇子育て関係機関との連携強化 ◇保育教諭の研修参加への支援 ◇こども園と小中学校の連携した取組の推進 ◇国際感覚に触れる保育教育の推進 ◆こども園における事務のICT化の推進		担当課 こども支援課			
取組状況	子育て支援センター等で、子育てに関する様々な情報交換や悩み相談に取り組んでいる。 個々の児童の特性に応じた対応方法等を小学校への入学にあたり、各学校や学童保育所と連携することで、環境が変わるものびと過ごせる環境づくりに取り組んでいる。 3歳～5歳児がALTによる英語遊びを通して英語への関心を高め、楽しく触れ合える機会づくり及びこどもスポーツ体力向上事業等、継続して取り組んでいる。 こども園における事務のICT化を進め、保護者の利便性、保育教諭の事務の軽減化に取り組んだ。					
課題（問題点）	英語を取り入れた保育の充実や保育教諭のICTシステムを活用するための技術を向上させる必要がある。					
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 子育て関係機関で子育てに関する情報交換や子どもの成長に合わせた悩み等の相談支援に取り組めている。 園児が英語に興味を持ち、遊びを通して英語に触れあえている。				
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 子育て情報交換や悩み相談等の家庭を支援する取組や、こども園から小学校への継続教育としてALTによる英語遊びの取組を続ける。				
想定される取組 その他の取組	◇こども園と小中学校の連携した取組の推進			担当課 教育委員会		
取組状況	こども園（幼児教育）と小学校教育の円滑な接続に向け、架け橋時期のカリキュラム（アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム）を策定するため、各校園へカリキュラムのたたき台を提示し、意見聴取を行った。					
課題（問題点）	こども園と小学校の各担任を集めての会議により、情報共有を行い、円滑な連携を行う必要がある。					
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 令和7年度から平群町「架け橋プログラム」を実施するための意見聴取を行うことができた。				
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 令和7年度より「架け橋プログラム」を実施する予定。				

施策の展開方向 ②子どもたちの学び・こころ・からだづくりの推進（学校教育）		
想定される取組 その他の取組	◆ICTを活用した教育の更なる推進 ◆不登校児童生徒支援の充実 ◆GIGAスクール・教育DXの推進 ◇人権教育の推進 ◇子ども読書活動の推進 ◆地元企業等と連携した体験学習 ◇特別支援学級や通級指導教室の充実 ◇ALTによる外国語教育	担当課 教育委員会
取組状況	<p>子どもの知・徳・体の健やかな成長と、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進に向け、教育委員会と各校が連携している。平群小と平群中で「学力向上」、平群北小で「英語教育」、平群南小で「理科教育」を中心に取組を進めている。</p> <p>子ども読書活動の推進については、7月に「なつやすみとしょかんひろば」を開催した。</p> <p>また、SDGs学習の一環として「へぐりこどもサミット」を開催し、防災について、「かまどベンチ」の取組や「避難者の皆さんのためにどんなことができるのか」をテーマに、グループ討議と意見交換を行った。</p>	
課題（問題点）	<p>各校や子育て支援センターと連携し、更に不登校児童生徒に対しての支援と居場所づくりに取り組む必要がある。また、特別支援学級の体制改善と通級指導教室に通う児童生徒の増加への対応を検討する必要がある。</p> <p>子ども読書活動推進計画については、関係機関との連携により、更新していきたい。</p>	
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 町内各校への図書館司書・ALT・介助員等の配置を行う等、子どもの状況に合わせた対応ができているため。
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 今後も引き続き子どもの状況に合わせた学習を推進していくとともに、各小学校同士及び小中学校との連携・交流とSDGsの具体的な取組を行う。

施策の展開方向	③豊かな学びを支える環境づくりの推進	
想定される取組 その他の取組	◇学校施設の長寿命化 ◇教員の研修参加への支援 ◆学校・地域パートナーシップ事業の推進	担当課 教育委員会
取組状況	<p>学校施設の長寿命化について、平群町学校施設等長寿命化計画に基づき、小中学校体育館に空調設備設置等に向け設計含めた準備を開始し、令和8年度末の工事完了を目指す。中学校長寿命化改修工事は、空調設置後に工事着工する予定である。</p> <p>また、平群小学校は遊具設置、平群北小学校は音楽室改修と防犯カメラ更新、平群南小学校は玄関ポーチ改修及び防犯カメラ設置等の環境整備を実施した。</p> <p>学校・地域パートナーシップ事業の推進として地域の方にボランティア登録をしていただき、校内環境美化、図書整備、家庭科実習等の授業補助を手伝っていただいている。</p>	
課題（問題点）	<p>学校施設の長寿命化は技術的及び法的な課題に対する適切な対応が必要である。</p> <p>学校・地域パートナーシップ事業の推進については、ボランティアの高齢化やなり手不足が課題である。</p>	
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 学校施設の長寿命化については、小中学校体育館に空調設備設置等に向け設計を含めた準備を開始した。また、学校・地域パートナーシップについては、ボランティアのご協力により、学校の美化活動や授業補助等の活動を積極的に行っていただいているため。
今後の方針	拡充	(具体的な内容) 小中学校体育館の空調設備設置等工事については、令和8年度末完了を目指す。学校・地域パートナーシップ事業の推進については担い手を募集しながら継続していく。小中学校体育館の空調設備設置等工事完了後中学校長寿命化工事着手を目指す。

第6次総合計画 の位置づけ	施策分類		施策名			
	1	住みたい・住み続けたいまちになるための施策	a-3	地域を豊かにするための企業誘致と産業振興の推進		
施策の展開方向	①遊休地におけるにぎわい創出の推進と既存産業の活性化への推進					
想定される取組 その他の取組	◇土地利用計画・規制制度の周知 ◇地区計画の適正な活用 ◆「工場等立地促進条例」による優遇措置の活用		担当課 都市建設課			
取組状況	国道168号バイパス沿道においては、都市計画マスターplanや地区計画に基づき商業施設の立地誘導をするために、県等の関係機関との総合調整を継続して実施した。					
課題（問題点）	事業者側での土地の造成・用地交渉が必要なことや具体的な開発計画が出た時点で、都市計画法（地区計画）の制定に対する一定の期間を要するため、国道168号バイパスの上庄地区東側の工業拠点への企業誘致が進んでいない。					
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 国道168号バイパス沿道において、商業施設の立地誘導ができているため。				
今後の方針	拡充	(具体的な内容) 引き続き県と連携協力し、商業施設の立地誘導と企業誘致の推進を図る。				
想定される取組 その他の取組	◇小口融資制度の利用促進 ◆中小企業等のDXの伴走型支援 ◆産学官の連携による地域産業振興		担当課 観光産業課			
取組状況	町内金融機関と連携したチラシ配布等で小口融資制度の情報発信を行い、中小企業の活性化を図っている。 日本酒について、ターゲット層や原料等の見直しが必要であり、令和6年度は、奈良春日山酒造の酒蔵の改装後の生産にむけ、新たなパッケージや今後の商品開発・販売について産・学・官が連携し協議を行った。 これまで進めてきたスモーク大豆は、原材料の生産取止めに伴い特産品開発としての開発を取りやめた。					
課題（問題点）	毎年商品開発を実施しており商品の数が多数となっているため整理が必要である。					
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 毎年、近畿大学との産学官連携による商品開発に取り組めているため。				
今後の方針	継続	(具体的な内容) 今後も産学官連携による商品開発に取り組み、併せて町内給食提供等についてもを継続して実施し、地域振興を図る。 引き続き小口融資制度の情報提供に努め、商工会と連携して中小企業等の支援に取り組んでいく。				

施策の展開方向		
②新たな産業の創造や多様な働き方への支援		
想定される取組 その他の取組	◆多様化するライフスタイルに対応した働き方に関する情報発信や相談会等の実施 ◇商工会の連携による起業支援セミナー等の情報発信 ◇地域資源を活用した商品開発への支援 ◆サテライトオフィス等整備支援策等の検討	担当課 観光産業課
取組状況	<p>商工会や国が設置した経営相談所である奈良県よろず支援拠点と連携し、創業支援セミナー等の情報を発信している。</p> <p>令和6年度は健康食品の製造販売を目的とした会社に対し、国や金融機関等の優遇措置を受けられるよう証明書発行の支援を行った。</p>	
課題（問題点）	<p>特定創業支援等事業を受けた証明の申請件数は令和4年度より増加しているが、起業を目指す方に漏れなく情報が行き届くようさらなる発信を行う必要がある。</p> <p>サテライトオフィス等の多様化するライフスタイルに対応した働き方の整備支援策についてはニーズ調査から検討を始める必要がある。</p>	
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 令和6年度は創業者支援制度を活用した創業者数が3件と順調であるため。
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 商工会や奈良県よろず支援拠点と連携し、さらなる情報発信を行うとともに、多様化する働き方に対する整備支援策について検討を行う。

第6次総合計画の位置づけ	施策分類		施策名	
	1	住みたい・住み続けたいまちになるための施策	a-4	移住・定住の促進と良好な住環境づくり
施策の展開方向	①若い世代の人口増加に向けた移住・定住の促進			
想定される取組 その他の取組	<p>◆移住・定住を促進する新たな施策の検討及び実施</p> <p>◆移住促進のための PR 活動</p>			担当課 まち未来推進課
取組状況	<p>東京圏からの移住者に対する「平群町移住支援金」の実施や結婚のスタートアップに係る費用の一部を助成する「平群町結婚新生活支援金（リフォーム費用を対象に追加）」を実施し、移住・定住促進を図った。</p> <p>また、PR 動画の制作・配信、公共施設や小売店、鉄道会社やバス事業者へのポスターの掲出等のシティプロモーションを実施した。</p> <p>令和 6 年度は TikTok を活用し、子育て支援制度や平群町の魅力を伝える動画を制作、発信した。</p> <p>定住促進奨励金の交付を平成 28 年度から 9 年間実施し、新規転入者が 262 件あった。</p>			
課題（問題点）	<p>結婚新生活支援金について問い合わせはあったが、対象条件に合わず、申請に至っていないケースが見受けられた。</p> <p>シティプロモーションについては、町の魅力を町内外に発信し、移住・定住を図れるように継続して実施していくことが必要である。</p>			
施策の評価	概ね順調	<p>(左記評価の理由)</p> <p>「平群町移住支援金」は問い合わせはあったものの対象条件に合わず申請に至らなかった。「平群町結婚新生活支援金」は 7 件申請があった。</p> <p>町の魅力の PR については、様々なメディア（HP・SNS・報道発表）を通じて、発信できた。</p>		
今後の方向性	拡充	<p>(具体的な内容)</p> <p>国や県の補助金等を活用しながら、シティプロモーションを引き続き実施していく。</p>		

施策の展開方向	②住環境の向上と併せた空き家の活用と流通の促進	
---------	-------------------------	--

想定される取組 その他の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇補助金を活用し、既存木造住宅の耐震化の促進を進める</li> <li>◇空き家バンクの利用促進</li> <li>◇不動産業者との連携</li> </ul>	
取組状況	<p>既存木造住宅の耐震化促進のため、補助金を活用した耐震診断補助を行った。 空き家物件の登録から利用希望者のマッチング調整等の成約に至るまでの仲介相談等空き家バンクの運営に積極的に取り組んだ。 空き家の適正な管理を促進するため、個別に行政指導による通知と固定資産税納税通知に啓発チラシを同封し周知を図った。 空き家の利活用を進めるため「空き家等対策計画」を策定した。</p>	
課題（問題点）	<p>購入希望者の利用登録は増えているが、空き家バンクの登録物件がまだ少ない状況である。 空き家の管理を適正に行わない管理者への対応は、訪問指導も行っているが手詰まりになっている。</p>	
施策の評価	概ね順調	<p>(左記評価の理由) 空き家の不適正管理件数は増加しているが、空き家バンクの運営に積極的に取り組んだことにより、成約件数は順調に推移している。 (R5:7件⇒R6:8件)</p>
今後の方針	<u>拡充</u>	<p>(具体的な内容) 引き続き空き家バンクの登録物件の増加を図り、空き家の利活用を促進する。 空き家の適正管理への行政指導の強化促進を図る。</p>

想定される取組 その他の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇不動産業者との連携</li> <li>◆空き家対策と利活用の検討及び実施</li> </ul>	
取組状況	<p>不動産業者への聞き取りを基に制作した配布しやすいサイズの子育て世帯向けリーフレットを町内外の不動産業者に配布している。</p>	
課題（問題点）	<p>空き家対策と利活用に対する施策の検討と財源の確保が必要である。</p>	
施策の評価	概ね順調	<p>(左記評価の理由) 空き家対策と利活用の他自治体での施策を検討している。</p>
今後の方針	<u>拡充</u>	<p>(具体的な内容) 都市建設課と連携しながら空き家対策や利活用について補助の活用等や郵便局との連携に向けた検討を行う。</p>

施策の展開方向 ③田園的で良好な住まいづくりの推進		
想定される取組 その他の取組	◇「平群町開発指導要綱」に基づいた適切な土地利用の推進	
		担当課 都市建設課
取組状況	無秩序な市街化を防止し、円滑な開発事業が実施できるように、「平群町開発指導要綱」に基づいて、周辺環境に配慮した土地利用が図れるよう指導を行った。	
課題（問題点）	開発指導要綱の適用範囲外（開発許可不要）の小規模な住宅造成が、増加しつつあり町の指導が及びにくい状況である。	
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 「平群町開発指導要綱」に基づき、適切な指導を行っているため。
今後の方針	継続	(具体的な内容) 引き続き適切な土地利用が図れるよう随時指導を行うとともに、現場状況に注視し、必要であれば事業者と協議を行う。
想定される取組 その他の取組	◆テレワーク等の住環境・ライフスタイルに対する支援 ◇貸し農園の周知及び促進	
取組状況	広報紙(4月号)にて貸し農園の周知及び募集を行った。（令和6年度末時点で、95区画中90区画の貸し出しを行っている。）	
課題（問題点）	地区によっては若干空き区画があるため、貸し農園の周知についてさらに広める必要がある。 テレワーク等の支援についてはニーズ調査を行い、具体的な方策や計画検討を行う必要がある。	
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 貸し農園の周知により一定の利用者が確保されているため。
今後の方針	継続	(具体的な内容) 土地所有者や利用者の意向を確認しながら、引き続き事業の実施をおこない、ふれあい農園の区画に余裕がある場合は、町のホームページ等を活用し、広く周知と募集を行っていく。

施策の展開方向 ④公営住宅の長寿命化と管理		
想定される取組 その他の取組	◇町営住宅の適正な維持管理	担当課 都市建設課
取組状況	<p>公営住宅の良好な住環境維持のため、除草・清掃、施設の改善・改修を適宜実施し、年 1 回の入居者募集を行った。</p> <p>また、老朽木造住宅の解消に向けた特定入居による移転勧奨を行った。</p> <p>老朽木造住宅を 1 棟解体し、2 戸の住宅改修を行った。</p>	
課題（問題点）	<p>計画的な空き家の改修と「平群町公営住宅等長寿命化計画」に基づく維持補修を行うこととしているが計画通りの補修ができておらず、また老朽木造住宅らの移転等の課題がある。</p>	
施策の評価	やや遅延	(左記評価の理由) 日常の管理は行っているが、計画的な改修、修繕が実施できていないため。
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 町営住宅の適正な管理に努め、老朽木造住宅からの移転勧奨と移転後の早期の除却を進める。

第6次総合計画の位置づけ	施策分類		施策名			
	1	住みたい・住み続けたいまちになるための施策	b-1	町内外への豊かで魅力のある情報発信の推進		
施策の展開方向	①情報交換・交流の場づくりの推進					
想定される取組 その他の取組	◇適切な情報媒体を活用した情報発信の推進・強化 ◇住民説明会の開催		担当課 まち未来推進課			
取組状況	<p>広報紙はスーパーや金融機関等に配架しホームページ上でのデジタル化（カラー版）、フェイスブック、LINE、X、観光 Instagram 等の SNS を活用して様々な世代に効果的な情報発信に努めている。また、町の地場産業である小菊・古都華や近畿大学との産学官連携の取り組みの特集記事を広報紙に掲載した。</p> <p>LINE により気象情報・ホームページ・広報紙・ごみカレンダー・手続き案内などすぐにアクセスできるようリニューアルを行った。</p> <p>住民説明会は個別の事案に応じて開催することとし、町政報告の冊子を全戸配布した。</p>					
課題（問題点）	発信する内容により情報媒体を使い分け、より効果的な情報発信をする必要がある。					
施策の評価	概ね順調	<p>(左記評価の理由)</p> <p>即時性の高い SNS 等を活用しながら、町内外に情報発信を行えているため。</p>				
今後の方針	拡充	<p>(具体的な内容)</p> <p>広報紙や SNS 等様々な媒体を使い、適時適切な情報発信に努める。</p> <p>住民説明会に代わる住民との情報交換の場として、テーマ別学習会を推進する。</p>				

施策の展開方向		
②正確な行政情報の発信・提供		
想定される取組 その他の取組	◇ホームページの充実 ◇AIを活用した情報発信等の検討	担当課 まち未来推進課
取組状況	住民と行政をつなぐ情報提供・情報交換の重要なツールとして、ホームページを随時更新し、各課で発信も可能とし、即時対応も可能にする等の充実を行っている。	
課題（問題点）	AIチャットボット等の導入等住民の利便性が向上する施策について、費用対効果を見ながら検討する必要がある。	
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 昨年度に比べアクセス数は減少したものの、見やすいホームページを意識しながら運用を行えているため。
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 住民にとってより見やすいホームページを意識し、必要に応じて部分改修やAIチャットボットの導入等の検討を進める。
想定される取組 その他の取組	◇町政情報のわかりやすい公開・提供・環境整備	担当課 総務防災課
取組状況	情報公開コーナーにおいて、例規集や予算書、議会会議録等を常時公開しているほか、広報誌やホームページ、SNSを活用した町政情報の提供も実施している。	
課題（問題点）	情報公開コーナーが狭隘のため、紙ベースの情報発信からデータベース化への移行が必要である。	
施策の評価	やや遅延	(左記評価の理由) 情報公開コーナーのデータベース化が進んでいないため。
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 情報公開コーナーでのデータベース化について各課に周知する等推進していく。

施策の展開方向		
③町の知名度向上と住民のシビックプライド醸成に繋がるシティプロモーションの推進		
想定される取組 その他の取組	◆イベントや SNS 等を活用した町内外への魅力の発信 ◇住民の町に対する愛着を育む情報発信 ◆オンライン関係人口の創出・拡大	担当課 まち未来推進課
取組状況	フェイスブック、X、LINE により、即時性を意識しながら「お知らせ」や「イベント情報」等を発信し、デジタル媒体を通じて関係人口の創出・拡大に努めている。 道の駅や総合文化センター、イオンビッグ等にシティプロモーションコーナーを設置し、町内外の人間に町の施策や魅力を発信している。 また、地域情報誌への子育て関連記事の掲載や小売店及び町内施設におけるシティプロモーションコーナーのポスター掲出、制作した PR 動画の YouTube 配信、Instagram を活用したフォトコンテスト等あらゆる媒体での情報発信に努めた。	
課題（問題点）	フェイスブックや X の更なる登録者数の増加を図る必要がある。 シティプロモーションを継続していくための財源の確保とより効果的な手法の検討が必要である。 特に転出超過が多い年齢層が魅力を感じるような情報を発信する必要がある。	
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) SNS を活用して、イベントの紹介だけではなく、給食の献立や新たな子育て支援策平群町に愛着をもつていただけるような情報発信に努めた。 また、公共施設だけでなく、民間事業者（イオンビッグ）との連携や町内の子育て世帯にも協力をいただき、様々な媒体を通じて情報発信を行ったため。
今後の方向性	継続	(具体的な内容) SNS だけでなく、ポスター掲出や雑誌等への掲出等あらゆる方法を使いながら、シティプロモーションを推進するとともに、若い世代が活用している TikTok 等の新たな SNS の活用についても検討していく。
想定される取組 その他の取組	◆イベントや SNS 等を活用した町内外への魅力の発信 ◆オンライン関係人口の創出・拡大	担当課 観光産業課
取組状況	観光 Instagram による「#へぐりフォトコン 2nd」を企画・実施した。「古都華フェめぐり」では SNS での広告投稿やハッシュタグキャンペーンなどを実施しフォロワーの増加につながった。 令和 6 年度は、令和 7 年度に開催される関西大阪万博の事前イベントに参加し、へぐり時代まつりや平群町の観光名所の PR を行った。 また、後継確保が課題とされている時代祭りにおいて、これから時代祭りの担い手として期待される町内在住の中学生・高校生による、時代祭り学生実行委員会が結成された。 ほかにも、古都華フェめぐり in へぐりとして、町内で経営されている飲食店と共同で平群町産の古都華を使ったスイーツを展開するイベントをおこなった。	
課題（問題点）	観光 Instagram のフォロワーを更に獲得していくため、魅力的な情報発信に努める必要があり、そのためには投稿頻度を維持できるよう、持続可能な運用方法を検討する必要がある。 「へぐり時代まつり」については、実行委員を構成する団体の縮小等で担い手が減少しているため、後継確保が課題である。	
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) Instagram での情報発信を継続して取り組んでおり、フォロワー数も順調に増加しているため。 時代祭りにおいては、課題となっている後継問題に対し、学生実行委員会が結成された。
今後の方向性	継続	(具体的な内容) Instagram への継続的な発信により、フォロワーを増やし効果的な運用を目指す。 時代祭りにおいても、引き続き、後継の確保や新たな催しの検討を行っていく。

第6次総合計画の位置づけ	施策分類		施策名			
	1	住みたい・住み続けたいまちになるための施策	c-1	緑豊かな自然を守り、育て、繋ぐ取組の推進		
施策の展開方向	①里山づくりの取組による自然に包まれたまちづくりの推進					
想定される取組 その他の取組	◇整備団体への補助金の交付 ◇木材・竹材破碎機の貸出 ◇金剛生駒紀泉国定公園等の自然環境の保全		担当課 観光産業課			
取組状況	里山整備団体（友遊クラブ）に対し、活動に対する補助金の交付や木材・竹材破碎機の貸出を行い、竹林整備を支援した。（鳴川地区にて 0.23ha の竹林整備を実施） 他には、森林環境譲与税を活用し、椿井城登城路のほか、町内民有林のナラ枯れ等の危険木撤去等の森林整備や、地域民有林の所有者に対し所有森林管理に関する意向調査を実施した。					
課題（問題点）	里山整備団体構成員の高齢化が進んでおり、今後の事業の継続が懸念される。また、新たな里山整備団体の確立が必要である。					
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 補助金の交付や木材・竹材破碎機の貸出等、既存団体への支援は実施できているため。				
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 引き続き、団体への活動の支援を行うとともに、新たな団体の確立を目指す。 地域で優先して整備すべき民有林所有者の意向を確認し、適切な森林環境譲与税の執行を行っていく。				

施策の展開方向	②環境美化の推進	
想定される取組 その他の取組	◇地域団体への活動支援 ◇環境美化意識の普及啓発活動の実施 ◇「平群町ポイ捨て等の防止条例」の周知・啓発 ◆不法投棄防止用の防犯カメラの設置の推進 ◇県 TNR 事業への申請と町単独事業（地域の環境対策費補助金交付）の実施	担当課
		住民生活課
取組状況	<p>不法投棄防止対策として、毎年山間部等の重点箇所に防犯カメラを設置している。          新設箇所：R6 横原地区・椿井地区 2台          県 TNR 事業による申請と町単独事業の補助金交付の双方より町内の地域猫の減少を目指す取組みを実施した。          実施場所：R6 信貴山地区・久安寺地区          クリーアップ活動を通じて、住民と共に環境美化に努めている。</p>	
課題（問題点）	<p>不法投棄の防止に向けた PR は年2回広報紙に掲載する等積極的に行っており、事業者等による建築廃材等の不法投棄の件数は減少しているが、回収後の処分が進んでいない。          平群町ポイ捨て等の防止条例を制定したが、ポイ捨て等は減っていない。</p>	
施策の評価	概ね順調	<p>（左記評価の理由）          防犯カメラの設置を進め、不法投棄の件数が減少しているため。          また、TNR 事業については、概ね計画通りに実施できているため。</p>
今後の方向性	継続	<p>（具体的な内容）          不法投棄防止の防犯カメラは、不法投棄の多い場所より優先順位を持って毎年設置を行っていく。          TNR 事業は、自治会等の協力をいただきながら地域猫ゼロの町を目指す。          ポイ捨て等の防止条例を広報や看板設置等で周知していく。</p>

第6次総合計画の位置づけ	施策分類		施策名			
	1	住みたい・住み続けたいまちになるための施策	c-2	持続的で安定した農業経営に向けた取組の推進		
施策の展開方向	①農産物のブランド力向上及び高収益作物の推進による農家の経営支援					
想定される取組 その他の取組	◇平群ブランドの啓発 ◇道の駅と連携したイベント等の開催 ◇町内産高収益作物の認知度向上のための情報発信 ◆産学官連携の促進（近畿大学との連携協定等） ◆町内産高収益作物の食品産業との連携強化		担当課 観光産業課			
	<p>平群ブランドのポスターを道の駅等で掲示し、PRを行っている。</p> <p>また、信貴山寅まつり等イベントに PR ブースの出店をした際に平群ブランドに認定している古都華やバラの PR、販売を行った。</p> <p>近大農学部と温室バラ組合と連携した食用バラの生産と商品化へ向けた打合せを進めている。</p> <p>これまで行ってきた原生エノキ・ヒラタケについては、近大農学部の協力農家による栽培を開始した。</p>					
取組状況						
課題（問題点）	平群ブランドに認定しているものの中でも、イベントの開催時期や農産物が収穫できるタイミング等の影響で啓発に差がある。					
施策の評価	概ね順調	<p>(左記評価の理由)</p> <p>平群ブランドに認定している農産物をイベント等で PR、販売できたため。</p>				
今後の方向性	継続	<p>(具体的な内容)</p> <p>引き続きイベント等での PR、販売を実施し、平群ブランド認定品や高収益作物の知名度向上に努める。</p>				

施策の展開方向	②営農体制強化への支援	
想定される取組 その他の取組	◇新規就農者への支援 ◆スマート農業に係る交付金等の情報発信 ◇新規営農システムの構築 ◇担い手の確保と集落営農の組織化 ◇休耕地や遊休農地への景観作物の植栽の検討 ◇広域連携による有害鳥獣駆除事業の推進	担当課
		観光産業課
取組状況	<p>新規就農者 1 名の認定及び既存認定新規就農者への補助金の交付を行った。奈良県による上庄・梨本地区特定農業振興ゾーンでのイチゴ施設整備に向けたスマート農業の導入について県・町・地元との検討を行った。</p> <p>生駒市・平群町・三郷町等で構成する信貴生駒山系鳥獣被害防止対策協議会において、有害鳥獣の生息についての情報交換や、捕獲機材の購入を行い、有害鳥獣駆除に努めた。</p>	
課題（問題点）	<p>スマート農業の具体的な活用方法と生産者への理解を得るための取り組みが必要である。</p> <p>獣友会員の高齢化に伴う新たな人材の確保に向けた取組みを検討する必要がある。</p>	
施策の評価	概ね順調	<p>(左記評価の理由)</p> <p>遊休農地の解消に関しては進んでいないが、新規就農者の確保、スマート農業導入に向けた検討が進められているため。</p>
今後の方向性	<u>拡充</u>	<p>(具体的な内容)</p> <p>引き続き新規就農者の確保及び支援を行う。また、イチゴ施設でのスマート農業導入を行い、営農システムの構築を図る。有害鳥獣対策についても引き続き近隣市町と連携し実施する。</p> <p>平群町農業振興ビジョンの策定に向け、関係者と協議・調整を進める。</p>

第6次総合計画 の位置づけ	施策分類		施策名	
	1	住みたい・住み続けたいまちになるための施策	c-3	豊かな歴史資源や特産品を活かした観光振興の推進

施策の展開方向	①歴史的観光拠点づくりの推進
---------	----------------

想定される取組 その他の取組	◇観光拠点付近のインフラ整備の促進 ◇観光資源としての文化財の活用 ◆観光拠点におけるICT化の整備、デジタルを活用した情報発信		担当課 観光産業課
取組状況	第13回「へぐり時代祭り」を開催し、町の歴史や観光資源のPRを行った。 (イベント参加者12,000人、模擬店出展者100店) 企業版ふるさと納税により町内観光スポット(信貴山・千光寺・椿井城)の映像をインストールしたVRゴーグルを企業から寄附いただき、樅原イオンモール等で開催された関西大阪万博100日前イベント等で各イベントにおいて観光拠点の発信を行った。 平群小学校の生徒により、椿井城のポスター・掲示物が授業で作成され、平群町役場内にて掲示を行った。ほかにも、作成されたパンフレットを各イベントで配布し、椿井城の魅力が広く発信された。		
課題(問題点)	インフラの整備のための予算措置に向けて、国や県の補助金等の活用を検討する必要がある。 また文化財としての保存と観光としての活用を両立させていく必要がある。		
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 「へぐり時代祭り」を通じて、多くの人に観光資源等をPRすることができたため。	
今後の方針	継続	(具体的な内容) 「へぐり時代祭り」を継続して実施し、信貴山や千光寺等を中心とした誘客施策に取り組む。	

施策の展開方向	②自然資源や特産品を活用した観光の推進	
想定される取組 その他の取組	◇SNS 等を活用した旬な魅力の発信 ◇景観の適切な整備の推進 ◇観光サービス・地域特産品の開発支援 ◇景観を活かしたフォトコンテスト等の開催 ◆観光アプリの活用	担当課
		観光産業課
取組状況	<p>観光 HP 及び Instagram による定期的な情報発信やフォトコンテストを実施し、関係人口の創出に努めた。</p> <p>また椿井城登城路の危険個所の整備や支障木撤去等を実施した。</p> <p>古都華フェめぐり in へぐりを初開催し、町内飲食店と連携して古都華のブランド力向上および誘客に取り組んだ。</p>	
課題（問題点）	<p>観光 HP 及び Instagram を効果的に活用し、ブドウやバラの認知度向上に取り組む必要がある。</p> <p>また地域特産品の開発支援についても一過性に終わらせず、継続的に展開する必要がある。</p>	
施策の評価	概ね順調	<p>(左記評価の理由)</p> <p>飲食店向けのスイーツ開発支援や Instagram によるフォトコンテスト等の新たな取組を始める等、一定の取組が実施できた。</p>
今後の方向性	<u>拡充</u>	<p>(具体的な内容)</p> <p>特産品開発やフォトコンテスト等を継続的に取り組む。</p> <p>ブドウ・バラの認知度向上施策に取り組む。</p> <p>平群の小菊 PR 看板のリニューアルを実施する。</p>

施策の展開方向 ③道の駅や観光ボランティアガイドとの連携強化		
想定される取組 その他の取組	◇観光ボランティアガイドの活動支援 ◇道の駅と連携した観光イベント等の開催	担当課 観光産業課
取組状況	観光ボランティアガイドの会が企画したイベント等の広報・受付等を支援した。 また「大和お城まつり 2024」にブースを出店し、観光ボランティアガイドの会と協働で信貴山城址と椿井城の PR および物産の販売を行った。	
課題（問題点）	「観光ボランティアガイドの会」と年間行事等の情報を定期的に共有し、相互連携を密に図る必要がある。	
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 時代まつりで実施された観光ボランティアガイドによるヘグリ時代ウォークの活動支援を行った。
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 観光ボランティアガイドの会との連携を継続して行う。 また、道の駅とも引き続きイベント等で連携を図る。

施策の展開方向 ④広域連携・企業連携による観光資源の発掘と活用		
想定される取組 その他の取組	◇WESTNARA の取組強化 ◇お城フェス等の観光イベントへの参加 ◇信貴山城址の整備・PR	担当課 観光産業課
取組状況	<p>WESTNARA 主導による北海道プロモーション、オリジナル御朱印帳の開発、信貴山謎解きキットの販売を実施した。</p> <p>奈良県コンベンションセンターで開催された「大和お城まつり 2024」に出展し、信貴山城址と椿井城の PR を行った。</p> <p>また信貴山城址保全研究会による清掃整備活動を継続して支援している。</p> <p>観光振興と移動の利便性向上を目的としたシェアサイクルの実証実験が町内と周辺市町村で開始された。</p>	
課題（問題点）	イベントへの参加による費用対効果を見極める必要がある。	
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) イベント参加による PR 活動が実施できことや WESTNARA を中心として、広域連携による観光プロモーションについて一定の取り組みが実施できたため。
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 広域連携による WESTNARA エリアの周遊促進を強化する。